

副会長就任ご挨拶

川村 昭宣 (建設・総監)

前任の毎熊副会長が、日本技術士会長崎地区の代表幹事に就任（大橋さんの後任として）される事となり、その後任として平成25年6月8日の長崎県技術士会定期総会において、ご推薦をいただき、副会長のお役目を引き受けることとなりました。

私は今年2月に転倒して、肩の腱板を大断裂させてしまい、4月初めに手術し、5月末まで2ヶ月の入院生活を送りました。日本人男性の平均寿命は79.5歳ですが、健康寿命は70.4歳程度です。私が現在71歳なので、ほぼこの健康寿命の歳に入院となりましたが、幸いにして無事完治しつつあり、健康の大切さ、ありがたさを実感しているところです。

入院生活では当然禁酒であり、2ヶ月間連続の休肝日達成となりましたが、これは50年ぶりの快挙であります。この成果でコレステロールやγ-GTPなどの数値が激減し、大喜びしましたが、退院後は元の飲酒生活に戻ったため、数値も元に戻ったようです。ただ「禁酒すれば数値が良くなる、長期の禁酒も出来る」事を実証できたので、安心して飲むことが出来、精神的にも非常良かったと感じている毎日です。

手術後半年が経ち、毎日リハビリに努めていますが、まだ筋力は低下したままで、元に戻りません。「スポーツ選手が、練習を1日休んだら取り戻すのに3日かかる。」また「脳と筋力は使えば使うほど良くなる。使わなければ確実に衰える。」と言われていますが、筋力については今回の入院で実感いたしました。

技術士も毎日の研鑽が大切であり、怠慢な生活をしていけば、技術力は低下する一方となってしまいます。長崎県技術士会のCPD活動等に更に積極的に参加し、技術力の強化をしてい

きたいと考えております。

私は平成2年度に技術士に合格し、すぐ長崎県技術士会に入会し、高齢の先輩技術士の方々が皆お元気で、「技術士は生涯現役」と言いながら、熱心に仕事に取り組み、技術士活動をしておられるのに、感銘を受けてきました。

しかし私は、長崎県技術士会の総会などには、ほとんど出席してきましたが、長崎県技術士会では、今まで監事として活動する程度で、熱心に活動したとは言えないと、大いに反省しているところであります。

長崎県技術士会も会員140名以上の大所帯となりましたが、まだまだ長崎県内には長崎県技術士会に入会しておられない技術士が、恐らくその何倍か居られると思われれます。何とか多くの方が入会していただける様、長崎県技術士会に入会して良かったと思っていただける様、努力して参ります。

また日本技術士会長崎県支部設置について、長崎県内在住の日本技術士会の会員の方のアンケートをとった結果、多くの方が支部設置賛成という結果となりました。

私は今まで「長崎県支部設立してもメリットは無い」と考え、支部設置には反対の立場をとって参りました。今後は長崎県支部設置の方向で進んで行く事になりますが、「日本技術士会に入会している技術士のみによる長崎県支部」と「長崎県内在住の全技術士を対象にした長崎県技術士会」いう2つの組織が出来ることとなります。無用な混乱や重複活動を避けるため、今後も長崎県技術士会と長崎県支部が一体となって活動していく様にしていきたいと思っております。

今後副会長として、微力ではありますが山口会長や毎熊代表幹事をバックアップし、長崎県技術士会の更なる発展のために、少しでも寄与出来るよう努力していきます。よろしく願いいたします。

技術士と議会活動

清水正明（建設・上下水道・総監）

本年7月21日投票の県議補欠選挙、長崎市選挙区で当選することが出来、県議会議員となることができました。選挙に際しましては、技術士会の多くの方から声をかけていただき本当に心強い思いでした。ありがとうございました。

さて、当選してから、最初の定例会となった9月議会で、いきなりの一般質問となり戸惑いを隠すことができませんでした。しかし、選挙戦でも、「技術者としての38年の行政経験」を前面に出していたため、断ることもできず、「ここは、一発頑張らねば」の思いでした。

まず、質問項目として考えたのは、当然のごとく、「建設」と「上下水道」——。技術士としての自信と誇りを持って選定にかかりました。「長崎駅周辺事業と九州新幹線西九州ルート調整状況」「県下の汚水処理施設の整備状況及び大村湾の水質向上策」等など——。

質問項目をまとめるのには、「技術士試験」の論文の構成がおおいに役立ちました。

①現状、背景 ②課題 ③解決策（理事者側の回答）④今後の展望 一人、一時間の「一問一答方式」ですから、少なくとも40分以上は、質問者がしゃべらなければなりません。大体、3000字で1分の喋りと言われてますから、12000字以上。平成12年度以前の技術士試験が1日、それくらい書いていましたから、「それがベースかな」とも考えました。

しかし、論文形式にまとめてしまうと、どうしても、「原稿読み」となってしまう、それが、どれくらい聞きづらいことか理事者側として知っていましたので、ここは、技術士試験の「骨子法」を実戦することとしました。

とにかく、項目を原稿用紙に書く、書く。そして、一番の課題は、「時間」。余らかしてもいけない。オーバーしたら、ブザーとともにストップ。少しのオーバーは新米には許容でも、あまり余らかしたら、「やっぱり新人やね」と思われてしまいます。

理事者側の回答時間が予想出来ないだけに、自分で時間の加減をしていくためには、この「骨子法」は最適でした。少し、時間が不足気味でしたが、用意した5つの項目を全てこなし、ブザーが鳴る5秒前に、「これで質問を終わります」とまとめられたのは、本当に「技術士試験の経験」が大きかったと思います。それと、少し「アガル」かな？と心配もしていましたが、ここも、やはり「口頭試験」を3回受けている強みで、理事者とのやりとりも面接試験と思えば、何ともありませんでした。

しかし、質問、回答者は逆転しましたが——。質問者が、長々喋るということは、なかなか経験できないことです。このような状況でしたが、議会で自分を助けてくれたのは、「技術士としての経験と誇り」と考えています。

今後とも、「技術の研鑽」と「技術者の地位向上」のため尽力しますので、よろしく願いいたします。

公益社団法人日本技術士会関連（長崎地区代表幹事就任ご挨拶）

毎熊 元（農業・総監）

朝晩めっきり涼しくなり、随分過ごしやすくなって参りました。会員の皆様ご健勝でご活躍の事と存じます。

この度、6月の役員改正において、日本技術士会の長崎県窓口となります長崎地区代表幹事に推され、お受けすることになりました。また、長崎地区代表幹事は日本技術士会会員であることは当然ですが、県技術士会役員を兼ねており、山口会長を中心とする県技術士会及び日本技術士会の発展、並びに日本技術士会と長崎地区会員との連絡調整に、微力ですが寄与することができればと思っています。

また、大橋前代表幹事におかれましては、12年間の長きにわたり、日本技術士会、長崎県技術士会の発展に貢献いただき有難うございました。感謝申し上げます。

私もまだ就任したばかりで、解らないことが

多く、大橋様のご指導を頼りにしております。

今後ともよろしくお願い致します。

私の就任後の初仕事は、日本技術士会長崎地区から長崎県支部移行への対応となりました。

皆様ご存じのとおり、日本技術士会は公益法人化の認定を受け、平成23年4月に公益社団法人日本技術士会となりました。それにより日本技術士会九州支部（福岡）は23年7月をもって、公益社団法人日本技術士会九州本部と名称を改めました。同時に各県支部を設置することが出来ることとなりました。

九州本部においては、24年4月の合同役員会において九州各県に県支部を設置することで承認されています。その後、11月に総務委員会（東京）において大分県、鹿児島県支部の設置が承認され、九州本部の12月の合同役員会において、本部長から準備が遅れている九州各県に対し「会員の声を把握するためのアンケート実施」の提案がされました。

長崎県においても課題であった事務局受け入れに協力頂ける目処が立ち、先日、日本技術士会会員の皆様方にお願ひしましたアンケートを実施することとしました。

結果と致しまして長崎県内の日本技術士会正会員83名のうち6割以上の方から同意を頂きました。会員皆様のご協力に感謝致します。

今後、同意を頂いた皆様から発議書への署名捺印が必要となります。後日郵送の予定です。お手数をかけますが、よろしくご協力のほどをお願い致します。

今後の活動方針としては、今までの九州本部との連絡調整に加え、県支部設置となった場合、日本技術士会統括本部よりCPD研修費用等に交付金が支給されますので、技術士として必要な技術研鑽の機会を増やすことが出来ると思っています。

また、「長崎県技術士会」と「日本技術士会九州本部長崎県支部」は、名前のとおり組織としては従来通り別の団体であります。予算の出所も別となります。しかしながら、長崎県では従来から長崎県技術士会が主体となり、日本技術士会長崎地区と一体となって活動を行っています。今後長崎県支部が設置されてもその協力体制は変わらないと考えています。

私自身も不慣れで至らないところばかりですが、皆様のご協力、ご指導を得ながら進めたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

今後益々技術士間の交流が拡大し、共に発展していくこと、会員の皆様方のご活躍を願っております。

※ 機関紙発行担当者より

2013年夏（6～8月）は極端な天候であったと気象庁が発表しています（9月2日付け）。

夏平均気温：西日本 +1.2℃（統計開始以降第1位）、東日本 +1.1℃（同第3位タイ）、沖縄・奄美 +0.7℃（同第2位タイ）。

日本海側を中心とした多雨：東北地方の7月の降水量平年比182%（統計開始以降第1位）

東・西日本太平洋側と沖縄・奄美の少雨：九州南部・奄美地方の7月の降水量平年比11%（統計開始以降第1位）

これから先も、過去に経験したことがないような事象が起こることが予想されるようです。

今月の機関紙の体裁を今までのように2段組にしました。見やすいように試行しています。会員の皆様のご意見を募集しています。下記の方へご意見等を頂ければ幸いです。

園田 直志

N.ソノダ技術士事務所

〒852-8021 長崎市城山町2-4

TEL 080-3226-7200 FAX 095-861-8279

Email: sonoda_naoshi@icloud.com

松本 守

(有) 創拓エンジニアリング

〒852-8041 長崎市清水町2番4号 FGEX 長崎ビル 3F

TEL 095-849-1781 FAX 095-849-1749

Email: so_matu@d2.dion.ne.jp